

会 議 録

会議の名称	平成30年度 第1回戸田市保健対策推進協議会
開催日時	平成30年5月18日（金）（午後2時00分～午後3時40分）
開催場所	戸田市福祉保健センター 講習会室1・2
出席者	<p><委員></p> <p>埼玉県立大学教授：上原 里程 蕨戸田歯科医師会：板橋 裕 蕨戸田市医師会：早船 直彦 埼玉県南部保健所：斉藤富美代 戸田市薬剤師会：成塚 康之 戸田市社会福祉協議会：田中 庸介 戸田市食生活改善推進委員会：西村 直美 戸田市町会連合会：平野 泰雄 市 民 委 員：加藤 由美 市 民 委 員：今西久美子 市 民 委 員：山岸 勝文</p>
欠席者	戸田市商工会：金子 秀一
事務局	<p>福祉部：吉野部長</p> <p>福祉保健センター：篠原所長、増澤課長、渡辺課長、高屋課長、小池主幹 岡本主幹、中島副主幹、矢作副主幹、山口主任</p>
傍聴人	なし
議題	<p>(1) 諮問</p> <p>(2) 第3次戸田市健康増進計画及び第2次戸田市食育推進計画について</p>
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	<p>平成30年度 第1回戸田市保健対策推進協議会 次第</p> <p>戸田市保健対策推進協議会委員名簿</p> <p>第3次戸田市健康増進計画及び第2次戸田市食育推進計画に関する資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 戸田市の計画について 2 スケジュール（案） <p>平成28年度版戸田市福祉保健センター年報</p> <p>平成30年度戸田市保健ガイド</p>

(会議発言の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	戸田市保健対策推進協議会条例第3条により、協議会委員の委嘱状交付式を開催する。
福祉部長	委嘱状の交付
福祉部長	挨拶
事務局	■次第1 開会 本日の出席委員数は、12名中、出席11名、委任状1名、本協議会条例第6条第2項により本協議会の会議は成立したことを報告する。
委員及び事務局	■次第2 委員紹介及び事務局紹介 自己紹介
会長	■次第3 会長挨拶
会長	■次第4 議題 議題(1) 諮問 諮問について、事務局説明をお願いする。
事務局	戸田市保健対策推進協議会条例第2条により、市長から協議会へ諮問を行う。市長は所用のため出席できないので、代理で福祉部長から諮問する。
会長及び福祉部長	福祉部長が諮問を代読し、会長に諮問を渡す。
会長	議題(2) 第3次戸田市健康増進計画及び第2次戸田市食育推進計画について 事務局説明をお願いする。
事務局	資料P1～4により、説明する。
会長	事務局の説明について、ご質問等はあるか。
委員	健康寿命の目標は何歳か。現在の戸田市の健康寿命は何歳か。
事務局	平成29年度の戸田市の健康寿命(埼玉県では、65歳に達した人が、介護保険制度の「要介護2以上」になるまでの期間としている)は男性が16.50歳、埼玉県平均は、17.40歳、戸田市の女性は、19.77歳、埼玉県平均は20.

	<p>24歳である。</p> <p>男性は、埼玉県内で最下位、女性も下位なので、目標は1つでも上位に上がりたい。</p> <p>原因は、後期高齢者の前期に該当する方の医療費が高いので、健康状態が悪いのではないかと考えられ、課題である。生活習慣病に関する医療費がかさんでいるという結果が出ている。</p>
委員	<p>埼玉県内で健康寿命が高いのはどこの市町村であるか。</p>
事務局	<p>1番は鳩山町で18.9歳、2番は東秩父村で18.17歳、3位は和光市で18.11歳である。</p> <p>介護の認定がされなければ、健康寿命が上がる。逆を言えば、戸田市は認定がされやすいとも言える。この計画の中では食生活や運動の改善、生活習慣を正し、少しでも健康寿命を引き上げていきたいので、委員の皆様から意見を頂きたい。</p>
会長	<p>地域との協働が健康寿命引き上げの下支えになると事務局から説明があった。皆様の所属する団体等で、現状、健康づくりで取り組んでいること、今後取り組みたいことがあればお伺いしたい。</p>
委員	<p>3年前から長寿介護課と老人クラブ主導で体幹を鍛える元気体操（健康体操）を行っている。47町会ある内の15町会で立ち上げた。町会に入っていない人でも参加できるように、町会以外に、にじの杜、障害者福祉会館、平等寺の3か所でも元気体操（健康体操）の活動を立ち上げた。その3か所で活動している人の中からリーダーとなる人材が出てきて、まだ体操の活動が立ち上がっていない町会で立ち上げてもらいたいと考えている。各町会の最高齢は90歳を超えている方が参加している。脊柱管狭窄症や脳梗塞の後遺症がある人も数名参加しているので、そういう方たちでも出来る体操を行っている。</p> <p>これまで参加してなかった者が、何度か元気体操（健康体操）の活動に参加して、体操が出来るようになると長寿介護課から、リーダー研修を受けて、リーダーになって会を立ち上げてみてはどうかと言われる。多少はできるが、そもそもが素人なので、リーダーになるのは、不安がある。長寿介護課からフォローもあり、体操で使用するリストバンドと負荷をかけるための重りとTシャツは支援してもらえが、それ以外の支援は無く、体操を行う場所、体操に参加するメンバーは、リーダー自身で探さなければならない。町会会館を使用したくてもお金がかかり、町会長からの許可が得られなければ、町会会館を使用することも出来ない。参加するメンバーでお金を出し合って場所を借りなければならないので、長寿介護課がもう少し動いて力を貸してくれたらと思う部分はある。</p> <p>元気体操（健康体操）の活動が始まって3年目になり、色々な人から良かったという声も聞いている。自分のために体操をしているが、基礎的な体操、体幹を鍛える体操なので、65歳よりももっと若い方に参加して頂きたい。40代、50代の</p>

	<p>方にも参加していただいて、自分に足りないものは何かと分かってもらえたら、若い世代が自分の健康に対して自覚を持って考えてもらえるのではと思う。年齢が上がってもできるが、年を取る前に、怪我をする前にやったほうがいい。</p> <p>普及させるにはどうしたらいいか、触れる機会をどうやって作ったらいいかを考えている。リズム体操は補助が出て、リズム体操をやっているから出来ないという考えの人が多。しかし、リズム体操とは鍛える部分が違うので、元気体操（健康体操）も一緒に活動してほしい。私は約40年前からぎっくり腰をやってしまっているが、3年間体操をして腰が楽になってきている。そのため、体操を発表する場が欲しい。また自分の体験を話す場が欲しくて、この協議会の市民委員に応募した。良いと思ってやっている体操なので、もう少し市のバックアップが欲しい。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。若い人にもっと広がってほしいという意見ですね。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉協議会では、市内の全町会に支部を作って頂いて、その支部活動の一つとしてサロンを開いて頂いている。サロンは町会会館等に午後集まり、お茶を飲んだり、お話をしたり、結果的に高齢者が多くなっているが、誰もが参加できるような活動をして頂いている。その支部活動の一つとしてリズム体操をサロン活動とセットでやって頂いている。リズム体操は誰もが知っている曲に合わせて股関節、肩関節を動かして体を柔らかくしましょうという体操である。体操が終わった後に、お茶を飲んで、おしゃべりをしてまた明日という活動を広げている。</p> <p>実は、昨日、戸田市文化会館でリズム体操の発表会があり、14年目を迎えた。私は、4月から社会福祉協議会で仕事をしているが、最初の印象は、活動に参加している人は高齢者が多いな、リズム体操に参加する人は固定化しているなど感じた。外から見るとうまく回っているように見えていたが、新しく若い人が入らない、中心となって活動している人は、年齢が上がっているなど感じた。ボランティアの会が主導して町会に呼びかけをして活動しているので、指導者になって頂いている方も年齢を重ねている。今後を考えると、若い指導者を育成することに常に重点を置いている。しかし、思うように世代交代が出来ていない。高齢者の社交の場に限定せず、もっと幅広く、例えば若い子育てをしているお母さんたちが、子供を連れて子供と一緒に体操をしてもいいと思っている。ターゲットにすべきは子育て世代のお母さんで、その方たちが参加してくれるようになれば、その中から指導者も出てきてくれると考えている。活動はこれまで通り続け、幅広い世代に参加を呼びかけたい。</p> <p>また、体操をやって終わりという支部もあるが、是非その後にサロン活動を行っていただきたい。やっていない支部にはサロン活動の働きかけを行う。事務局としては、こんなことをやってほしいという考えもあるが、活動自体は支部の皆さんがやることなので、活動に対してどんなサポートができるか考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>元気体操（健康体操）では、今後コグニサイズと呼ばれる認知症を遅らせる運動を開拓していきたい。元気体操（健康体操）もリズム体操もその場で終わりではな</p>

	<p>く、運動の前後などにつながりができるような活動にしていきたい。</p>
会長	<p>高齢者には様々な取組がされている。若い人たちにどう広げていくかというところは、この健康増進計画の中では一つ課題になるのではないかと。</p> <p>別の視点で皆様から意見はありますか。</p>
委員	<p>食生活改善推進員は現在会員が85名いる。最高齢は90歳を超えている方で、平均年齢は70歳を超えている。40、50代に広げたいとの思いはあるが、体験に来られても、会員にはなってくれない。仕事と子供が優先になっている。若い方から参加したいという話があると、子供と一緒にいいですかと聞かれ、子供の面倒を誰が見ようという話になる。子供を連れて来られるような場であること、また子供を連れてきても誰かが面倒を見てくれるという場であれば、継続して参加してくれる。その方たちが50代になった時に、後を引き継いでくれる。というのが一番良い。</p> <p>特養で別のボランティアもやっているが、70代、80代の方が元気でやっているが、引き継ぐ人がいない。そこをどうやっていけばよいか分からないのが課題。食生活改善推進員では7月に親子料理をやるが、食生活改善推進員の誰かが、子供の面倒をみなくてはいけない。面倒をみるということはそこに責任も発生する。そこに対して市からのサポートが欲しい。</p> <p>戸田市内は公園が多くていいと感じている。ラジオ体操もどこでもやっていたいなと思う。転勤族で、他のところと比較すると、戸田市内での運動に関する活動はかなりやっていると思うので、健康寿命が低い理由が分からない。</p> <p>食生活改善推進員では、単身高齢者のお食事会を開催しているが、あまり出てきてくださらない。単身者であまり外へ出ない方を、どう引っ張ってくるかも健康寿命を引き上げる課題ではないかと思う。</p>
会長	<p>若い人に関心を持ってもらうというのは大きな課題だというのは、それぞれの団体に認識されている。市と協働している部分、今後協働したい活動があれば、この会議の後でも事務局に伝えてください。事務局から他の3つの話し合いについて説明をお願いします。</p>
事務局	<p>現在の食育推進計画では「心をつなぐ食」としての取組の展開が難しかった。日本の食文化の伝統をどのように、誰に伝えていったらよいか考えを伺いたい。</p>
会長	<p>日本の食文化の伝承について、委員の皆様からご意見はありますか。家庭でやる、地域でやるなどの視点もあるが、どのような考えを持っているか。</p>
委員	<p>学校でも栄養士が入ってかなりの食育の取組がされている。食育は何歳まで食育をしていくかというところはいつも課題になっている。学校と市でかなり食育に関する事はやっているのですが、このままでよいのではないかと思う。</p>

会長	団体での意見ではなく、個人の意見でも良いと思うので、他にになにかあるか。
委員	高齢者の単身、又は夫婦だけの世帯が多い。三世代が一つの家族として暮らしている家庭は非常に少なくなっていると感じるので、ご高齢の方と子供たちが交流できる場が必要だと思う。
委員	朝ごはんを食べてない人が増えているように感じるが、食事のリズムがきちんとしていない人はどれくらいいるのか。
事務局	昨年実施した、市民アンケートの朝食を食べているかの結果は、市は22%が食べていない。国は13%、県は19.8%という結果になっている。
委員	自分の子供が都内の学校に通っているが、子供から聞いた限りでは、埼玉から通学してくる子供は食べてこない子供が多いと聞いている。
委員	大学で朝食を提供してくれるところも出てきている。
委員	自宅の近所に通う小学生でも朝食を食べない子供がいると思う。
委員	朝食を食べないという問題はかなり以前から取り上げられている。具体的に、どの年齢層が多いのか、男性、女性、単身者、家族構成、学生、社会人等データを分析して、対策を立てた方が良い。 この健康増進計画は、介護予防に繋がる。子ども食堂は、子どもたちだけでなく高齢者も入っている。高齢者の方、認知症の方が子どもたちに食事を作って提供しているところもある。他の計画との融合をした方が良い。
委員	高齢者の栄養失調も今、問題となっている。
委員	ご年配の方だと買い物に行くのも大変、1人分作るのも面倒、高齢者の低栄養という課題は、現実にあると思う。3食きちんとするのはなかなか難しい。 戸田市内に認知症カフェもいくつかある。他の何かとくっつけて、組み合わせたら、良い取り組みができるのではないかと思う。
委員	配食サービスの現状はどうなっているのか。
委員	地域包括では、配食サービスを実施しているが、どれだけ行き渡っているのか、必要な人に、届けるにはどのように広がっていけばいいか課題である。
事務局	市内の医療機関の栄養士の方と昨日懇談する機会があった。おにぎりなどはスーパーやコンビニですぐ手に入る。所得の問題があり、安くてお腹が満たされるおに

事務局	<p>ぎりなどだけで済ます人も多いのではないかという話があった。</p> <p>若いお母さん自身が食べない。子どもにはベビーフードなどを食べさせるが、お母さんは食事を摂らないという課題もある。所得との絡みは一番の問題であり、難しいところである。</p> <p>市では65歳以上の方で申し込みがあれば、お昼の配食サービスは提供している。お昼の配達では、安否確認を行い、何かあれば市へ連絡が入るような体制になっており、障害者でも同様の配食サービスがある。民間介護事業所でも個別の栄養面を考え、食べやすく細かくするなどのニーズに応じたサービスを提供している。市がやらなければならないというよりも民間の方がかなり増えている。</p> <p>地域包括支援センターではお昼ご飯を食べるサロン活動なども増えてきている。中央包括支援センターでは、福祉保健センターの調理室で、包括のメンバーと料理教室を行っている。</p>
会長	<p>多世代に渡って、食育に関する取組に入っていけたら地域づくりにもつながるし、いいのではという意見があった。今、「多世代での地域づくり」というのは一つのキーワードになっていて、そういった視点も広げていくということも課題なのかなと感じた。</p> <p>3つ目について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>昨年度のアンケート調査では、健康と思う人は、歯が多いという結果が出た。歯と健康について皆さんの考えを伺いたい。</p> <p>8020運動の推進によって、高齢になっても歯が残っている人が増えた。それに伴い、歯周病や虫歯の問題も新たに出てきた。日頃の診療ではどのように感じているかお話を伺いたい。</p>
会長	<p>まず、健康だと思っている人が、歯が多いことについてどのように感じたか。その通りだと思うか、いや違う考えだということにご意見を伺う。</p>
委員	<p>戸田市内には歯科は何件あるのか。人口何人あたりに歯科が何件あるのか。埼玉県内で他市町村と比べてどうか。</p>
事務局	<p>ご質問にお答えできる資料は、今、持ち合わせていないので、お答えできない。介護保険のサービスの事業所の数は、川口市、和光市に比べて多い。数だけでなく、質の問題もあるが、施設数は多い。65歳以上の方がサービスを使うという前提で考えるが、65歳以上のサービスを利用者がどれくらいいるか、今後どれくらい増えるかということで、事業所が作られる。市が把握しきれないくらい多くの事業所が出来ている。介護サービスの何をどう使うかは、医師が診断して協力してくれないと使えない。介護サービスが使いやすい、ということは、事業所が多いということが逆に言えるのではないか。</p>

会長 委員	<p>歯科医院の数が多ければ、歯の健康につながるという考えでよろしいか。</p> <p>人口当たりの歯科医院が多ければ、歯科医師に診てもらえるチャンスは増える。自覚症状が無くても定期健診に行けるので、質問をした。</p>
委員	<p>自分が歯医者に通っているが、昔に比べて、虫歯などで、歯科で治療する子を見なくなった。</p>
委員	<p>学校検診でも虫歯のある子どもはかなり減った。ただし、虫歯のある子は、いっぱい虫歯がある。</p>
委員	<p>1歳半の孫がいるが、自分の子どもにはその頃に歯磨きをしてあげた記憶があまりないが、今は情報がたくさんあり、小さいうちから歯磨きを行っている。</p>
委員	<p>福祉保健センターでの乳幼児の健診ではどのような結果か。</p>
事務局	<p>3歳児健診では、平成29年度の実績で87%の子どもに虫歯が無く、国と県の目標値を超えている。12歳児の1人当たりの虫歯の本数も0.47本である。子どもの歯の健康状態はいいという結果が出ている。大人については、少し良くない結果が出ている。</p>
会長	<p>事務局からは8020運動の推進のおかげで、高齢になっても歯が残っている方はだいぶ増えたとの説明があったが、その一方で、歯周病や成人の虫歯などの問題も出てきている。診療の現場ではどのように感じているか。</p>
委員	<p>統計はとっていないが、歯を保有されている方は増えている。自分が歯科医師になりたての頃に比べて、皆さんの口の中がかなりきれいな状態になっている。定期検診に来る患者も増えているが、自分の口と歯の状態に興味全くない人もいる。その人たちにどう興味を持ち、口の中を良い健康状態にしてもらえるかが課題である。</p>
会長	<p>四番目は専門性が高いので、知識のある委員から意見を述べてもらうことでよいか。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>自殺対策についても第3次の健康増進計画では盛り込むものとなる。第2次の健康増進計画では、心の問題を抱えている人がいつでも相談ができる窓口を周知する。ということを目指した。市内17か所の全金融機関と相談窓口の周知を行った。ゲートキーパーの育成を行った。今後も継続していく。自殺対策、心の健康対策としての取組の内容や視点についてご意見を伺いたい。</p>

会長	自殺対策計画は第3次の健康増進計画で初めてみんなで考えることになる。全国的にも一斉に、この時期に考える。医療的なこと、メンタルヘルスの取組で何か特徴的なことがあれば、お話して頂きたい。
委員	相談窓口があるということを知ることが一番大事。民間企業で働く者、公的機関で働く者には、産業医がついて、一人一人チェックすることになっている。ただ、国保に加入している人、自営業者に対しては抜け落ちている。
会長	自殺対策はこれまで県での取り組みであったが、県ではどのように考えているか。
委員	自殺対策は、県で各市町村ごとのデータを作成し、送付している。そのデータを分析して、どこにターゲットになるか課題が見えてくる。金融機関との連携した事業はなかなかないので、興味深かった。ゲートキーパー育成の取組もよいと思う。こうした、自殺に陥る一歩手前での取り組みを続けていくのは良いと思う。 自殺は複合的な問題で引き起こる。自殺者がピークの際は、経済的な問題が一番多かった。経済的な理由により、自殺する人はピーク時に比べ減ったが、それでも経済的な問題を抱えて自殺に追い込まれるケースは多い。今後も経済的な問題で自殺される方は課題として残る。複合的な相談が出来る窓口を作り、周知していかなければならないと思う。 自殺の最後の引き金は、アルコールである。自殺とアルコールの問題は引き離せない。
委員	子どもの自殺を一番に考えてもらいたい。いじめがなくなることはないと思う。学校の先生や職員の方に、いじめが起きた時にきちんと対応してほしい。自殺するくらいなら引きこもりも仕方がない。市では場合によっていじめられている子が避難できるようにスムーズな転校についても考えてほしい。
事務局	学校へは、平成28・29年度で市内の全小中学校で教員を対象にゲートキーパー研修を実施した。学校と保健師との連携は取れるようになった。
委員	いじめが起きたからその先生の責任ではなく、隠ぺいするのではなく、組織として対応できるようなシステムを作してほしい。
会長	この問題は市の中でも話し合われることであり、この協議会の委員である我々も、提言をしていかななくてはいけないと思う。
委員	戸田市内の自殺者数は何人か。未成年の自殺者はいるか。
事務局	平成28年度の戸田市の自殺者数は15名。女性2名、男性13名。 若年層は平成25年から平成28年の平均で2%。詳細に伝えると、個人が特定

	<p>されてしまうので、公表していない。</p>
委員	<p>戸田市内で麻疹の発生はあるか。</p>
委員	<p>戸田市内では1件もない。</p>
会長	<p>特にご質問等がないので、これで全ての議事が終了した。事務局へお戻しする。</p>
会長	<p>■閉会 以上で平成30年度第1回戸田市保健対策推進協議会を閉会とする。</p>
事務局	<p>次回の開催は、平成30年7月23日（月）午後2時から、福祉保健センター講習会室1で開催を予定している。</p>